様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ２４ 日現在

機関番号：４２６０８
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５３７０４２０

研究課題名（和文）近代日本文学における生物学・自然主義・優生学コンプレックスに関する基礎的研究

研究課題名（英文）Fundamental Research on the Complexes of Biology, Naturalism, and Eugenics in Modern Japanese Literature

研究代表者
辻　吉祥（TSUJI, YOSHIHIRO）

青山学院女子短期大学・現代教養学科・准教授

研究者番号：５０４０９５８８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,900,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では、〈近代〉日本における最も基底的な生物学的イデオロギーないし自然史的社会観である「社会進化論」「優生思想」とそれが文学に与えた影響もしくはその複合的な関係性について、多角的な分析が試みられている。そのための実証的基礎資料を国際的視野の下に収集、とくに世紀転換期以降の排除される社会的身体が、優生学的肯定性の中で虚点化（無関心化）される理性の狡知と陥穽（＝注意点）について、個々の思想・文学テクストの歴史的な精読において明らかにした。

研究成果の概要（英文）：　This research was an attempt to analyze in various ways the influence of “Social Darwinism” (also known as “Eugenic Ideology”)――the most basic biological ideology in “modern” Japan, or view of social life――on literature, or its complex relationship with literature. Based on collection of empirical primary materials from international perspectives, in particular based on historically intensive readings of separate ideologies and literary texts, the social body that had been excluded since the turn of the century became clear, in regard to the traps (pitfalls) and tricks of reason that were fictionalized within the affirmation of eugenics.

研究分野：人文学

キーワード：優生学　国文学　比較文学　思想史　安部磯雄　平塚らいてう　伊藤野枝　素木しづ

科研費
KAKENHI

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

１．研究開始当初の背景

この日本社会では、浮薄な消費社会に関する華やかで多様な議論と奇妙な混濁を示していたポスト・モダン思想が、極めて限られた一部の先鋭かつ根源的で批判的な議論を除いて、それ自体、高度＝後期資本制下の「商品」として消費される体に沈められつつあった時期、すなわち 1980 年代から 90 年代にかけて、ある資料群が、すくなくともわたし個人の眼には、〈近代性〉をほんとうの意味で確実に問い返さねばならない、またそれを迫ってやまない人間たちの数知れない声をそこに綴じ込めたものとして、確実に姿を現していた。

Eugenics Industry とよばれた、それら優生思想に関連した膨大な文献のプレゼンスは、その思想のもとに縊られた「わたしたち」と同じ仲間（だったはずではないか）の悲嘆の歴史的帰趨の複数の稜線を示しつつ、その問題圏の重さ、深刻さを、さきの「ポスト・モダン」思想の浮動性とはきわめて対照的なありかたで、良識ある者に突きつけ、問いかけるものとしてあった。思想それ自体として、とはつまり、マスター・ナラティヴの凋落、国民国家観の相対化、コミュニケーション的理性への期待など、ペシミズムのもとにおいてであれその反転に期するものであれ、未消化な輸入概念を自らの社会条件の中で再解釈して着床させる類の思考営為とは距離を置きつつ、しかしやはり同等かそれ以上のスケールにおいて、〈近代〉の楽天的肯定性、進歩（的達成）史観の一面性、ひいてはその隠蔽性を、それは、たしかに痛撃するものとしてあった。

明らかに消費の対象ではないその思想の骨格は、われわれの〈近代〉の質を、これまでとは違う視角で見つめ直すその引き受け先を、ポスト・モダン的異種混交の一要素などに含めてしまわない思想的回答のありかたを、求め、探していた。進化思想をそのベースに敷くひとつのパラダイムとも言うべき思想圏のあり方からすれば、理系、文系などに細分化された小さな現代的知性には、トータルな形ではどれも回答を望むべくもないようにも見うけられる。同時にまた、それは、何らかの大きな物語、ないしイデオロギーによって対処できるという自信に満ちた安易さを峻拒して、それらイデオロギーの存立基盤そのものに含まれた根深い問題性を指し示してもいた。

よってわれわれは、まず、回答そのものを最短の通路で探求すればよい、という短絡、視界の狭窄を避けつつ、既存の問題構制に依拠した、あらかじめ予想可能の回答を導出するのではない問いの作り方＝応え方の仕組みを案出せねばならない地点からはじめる、ということになる。問いは、いつも問い自体の歴史的背景を掘り崩すかたちで応えられねばならなかった。

２．研究の目的

以上のような問題意識からすれば、〈近代性〉の再考は、文学、思想いずれの面においても、〈近代〉がみずからを前提としたうえで保証した価値観や言語の枠内から導かれることは考えにくく、既存のさまざまな蓄積による研究の更なる精緻化であるよりは、それらの少なくとも相対化、さらにはそのための基盤をいかに形成するか、ということが課題として立ち上がってくるということになる。

「歴史」というパースペクティヴにおいて究められるべきそれは、〈近代〉日本における最も基底的な生物学的イデオロギーないし自然史的社会観である「社会進化論」「優生思想」をその最大背景として対象に絞り、それが文学・思想に与えた影響についてまず究明することが目途された。むろんその影響関係は複合的、非直接的、相互に触発的であることが見込まれ、またそれは粗悪な実証主義――いくつかの特定の用語の飛び火的関係を局所的な字句レベルでのみ確証してまわる――によって確認されるというばかりではない次元の、思考形態の転位、統辞軸、範列軸の差異を踏まえた換喩、提喩、隠喩的な転換、投影、あるいはまたイメージの再生産構造を見定めてゆく、多角的な「比較」文学、「比較」思想的アプローチを、必要な前提として想定している。

さらにそれらによって、確認された差異の目録は、むろん社会、ジェンダーにおける差別構造として厳然と組み込まれているのであって、その自然史的正当化、社会階級としての恒久化の相互の規定関係として現れ、言うまでもなくさまざまに言説（の規則）化されている。従来のイデオロギーと呼ぶにはあまりに微細かつ綿密で、社会慣習にも浸潤しやすいそのミクロ・ポリティックスを、文字通り解読すべき対象として切り出すべく努力されたいくつかの重要な筋道は、（１）自然主義文学の「自然」性について、単なる日本語訳移入史ではない各国の思想史（原典）に基づいた国際的な比較検討を行なうこと（２）その解放性と差別性において両極とさ

れる社会主義思想と自然史的決定論の差異と同一性、あるいは根本における同一性の懸念について、慎重に検分すること（３）上記の双方に通じる、または同時代全般に通有した生物学モデルのエクリチュールのあり方について検討すること、などを基軸に、論点として大きく集約された。

３．研究の方法

件の課題を、思想的にも実証面でも満たすことができるように、必要とされた日本語・諸外国語資料を、予算の許す範囲において、当初の計画通り、早稲田大学をはじめとした国内外諸機関にて、研究支援業務協力者の助力を得つつ収集し、問題別の系統化を施したうえで整理を行なった。

その際の、研究上の特色に重なる文献および資料収集上の留意点は、基本的には以下の通りである。

・ドメスティックな研究態度を排し、諸外国語文献にあたり、西洋文学・思想の影響色濃い〈近代〉日本文学形成に関わった原典をきちんと踏まえた論及が行なえるためのものとすること。

・「進化論」を基軸とする科学史、生物学史、遺伝学、また人種差別、貧民問題、犯罪人類学、精神医学、結婚論（性道徳）等の諸問題に関わる文献について、「優生思想」の広範な影響力を十分に踏まえるため、文・理系、研究領域の差異を問わず収集し、解読すること。

以上は、まず一年目から二年目にかけて行なわれた合衆国での学会研究発表「超人と病み崩れる身体」――ハンセン病と 20 世紀初頭における社会主義と優生学の節合をめぐって論じられた――では、例えば以下のように具体的に方法化して実現されている。

（１）一般にはそこに思想的な符合を見いだすことが難しい同じ 1879 年生まれの自然主義作家・正宗白鳥（マックス・ノルダウの翻訳紹介者)、『文学と革命』のＬ・トロツキー、小説『モーリス』(Maurice）の著者Ｅ・Ｍ・フォースターの三者に 20 世紀における緊要な同時代的問題の共有が見られることを指摘している。（一国的視座を排した思想的星座をつくる）

（２）思想化されたあるいはイデオロギー化された、進化の／退化の「身体」の問題を論じるにあたり、思想史的な概念用語のみに頼るのではなく、それが志向した具体的なイメージ、ヴィジョン――夢の、理想の身体――を具体的に挙げつつ論じ、社会主義と身体、退化論といった複数の解読格子を設定するなかで検討する。（領域の混合、再構成およびヴィジュアル・スタディーズの活用）

（３）立場を異にしながらも 20 世紀最大の平等思想に寄与した者達、マルクス、Ｋ・カウツキー、アントニオ・ラブリオーラ(Antonio Labriola)、あるいは幸徳秋水、大杉栄、安部磯雄、山川菊栄らの身体についてのヴィジョンを統一的に検証する。（従来の分類枠や基準の打破・相対化をはかる）

これらはあくまでその一部であるが、発表の場それ自体が、主として日本文学以外の研究者による検証を受ける場であることはもちろんのこと、資料の領域横断性、国際的視野、言語の多様性といった研究の水準を確保するために課した手法の要目を満たす仕方で、それぞれの問題の考究が行なわれている。

日本英文学会大会その他で発表が実現されたテーマも同様に、課題を満たすに重要な各論として、領域横断的でかつ日本語にとどまらない文献の調査が、費用の許す範囲で可能な限り追究され、収集、系統別の整理および実証的・基礎的な考察が施されるものとしてあった。

４．研究成果

現時点での本研究における成果は、いずれも代表者一人による地道な文献の解読と実証作業を伴うものでもあり、けっしてその数を競うものではないが、その特色を次のように報告することができる。

まず、多岐にわたる分野の各国語文献を地道に探求し、時間の許す限り着実に読み抜いていること。アジア研究最大の国際学会 AAS での発表では、英訳に頼ったものも屡あるが、少なくとも英・独・仏・露・伊・米各国の思想家、作家の文献について検証し、議論の俎上に上せており、日本文学の一国的な研究のあり方を超えようとする試みが実現されている。これについては論集の出版の打診も複数あり、ぜひ実現をみたいと考えている。また加えて、その後の継続的な展開として、発表メンバーを中核とした研究会を、筑波大学（東京キャンパス文京校舎）にて開催し、新たな研究の進捗について発表を行なうこともできた。約半数を占める外国籍研究者との討議・交流があり、問題意識のいっそうの深化と共有をみている。

また、日本英文学会での発表においても、平塚らいてう・伊藤野枝を包囲した同時代の生物学のヴァリエーションについて検討され、近代化確立の過程での、人間とりわけその生物学的〈女〉に対する矯正システムとしての学校、国民化、ジェンダー規範のあり方が検討に付された。優生思想が、生物学的〈女〉を設定し、劣位化しつつ活用する最もソフィスティケートされた制度的非科学としてこの〈近代〉に君臨してきたその仕組みが、分明にされたのである。

以上、すべてを説明するに及ばないが、多分野の各国文献を一つ一つ読解しながらの作業は、急ぐことのできない歩みながら、そ

れ自体が確実に新領域の意義を確認させるものであり、今後のさらなる個人的、共同的な研究に繋げてゆかねばならない。
　またもとより、研究成果には費用対効果的な直接性を超える内容が含まれていなければならず、研究過程での未知数の発見の有無が、本質的になにより重要であるとも言える。この度の三年間で確かに得られたそれら創発的な契機は、引き続き行なわれる研究の中で、学術的かつ公共的な意義が獲得できるよう、書籍の出版などを通してさらに育ててゆくことになる。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計４件）

学会発表
① 辻吉祥、「比較／差別のソフィスティケーション――素木しづ・キャリア・優生学」、青山学院総合文化研究所プロジェクト、2015 年 6 月 23 日、於：青山学院女子短期大学（東京都渋谷区）

② 辻吉祥、「その校門をくぐって――馴らされぬ精神と、平塚らいてう・伊藤野枝の生物学」、 第 87 回日本英文学会全国大会、2015 年 5 月 24 日、於：立正大学（品川キャンパス・東京都品川区）

③ Yoshihiro TSUJI, "Eugenics Problem in Japanese Literature and Thought――The Complicity of Socialism and Eugenics regarding the “Degenerated” Bodies of Hansen’s Disease Patients", （招待講演）, March 31, 2014, Sarah Lawrence College, Bronxville, NY, USA.

④ Yoshihiro TSUJI, "Superman and the “Degenerated” Bodies of Hansen’s Disease Patients: On the Complicity of Socialism and Eugenics", Proposal title: Representations of HD(leprosy) in 20th century Japanese Literature and History, The Association for Asian Studies (AAS) 2014 Annual Conference. March 28, 2014, Philadelphia, PA, USA.

〔図書〕（計３件）

① Maryanne Cline Horowitz（編）、スクリブナー思想史大事典翻訳編集委員会、野家啓一翻訳編集委員長、辻吉祥、丸善出版、（翻訳〔項目〕）「自然主義」『スクリブナー思想史大事典（第 4 巻）』、2016、3940p（pp.1297-1301）

② 辻吉祥、丸善出版、（翻訳〔項目〕）「テクスト・テクスト性」 『スクリブナー思想史大事典（第 6 巻）』、2016、3940p（pp.2368-2374）

③ 辻吉祥、丸善出版、（翻訳〔項目〕）「翻訳」、「物語（語り）」『スクリブナー思想史大事典（第 9 巻）』、2016、3940p（pp.3244-3250, pp.3372-3376）

〔その他〕
ホームページ等

なお、成果広報の一環として、研究内容を生かした、講演一回を以下の題目・日時・場所にて行なった。

① 辻吉祥
「原爆ドームと文学Ⅰ　原民喜の表現」、青山学院校友会 女子短期大学同窓会国文学科会 文学講座、2015 年 6 月 13 日、於：青山学院女子短期大学（東京都渋谷区）

６．研究組織

(1)研究代表者

辻　吉祥（TSUJI YOSHIHIRO）

青山学院女子短期大学・
現代教養学科・
准教授

研究者番号：50409588

(2)研究分担者　　なし
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者　　なし
（　　）

研究者番号：